

## 第2回 沖縄鉄軌道技術検討委員会(H27.7.29)の主な意見と対応について

### 1. 県民意見の概要

主な意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄軌道を運行した時に、沿線の既存市街地へ新たな環境負荷が生じるのではないか。</li> <li>環境負荷の低減を考える必要があり、新技術導入の可能性を把握しておいた方がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄軌道が市街地を通る場合の騒音、振動への対策の事例の整理を行う。</li> <li>新技術の情報も把握していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>耐災害性については、具体的な評価項目として重要であるが、どのような災害を対象とするかは整理する必要がある。</li> <li>耐災害性については、ルートとシステムの組み合わせで考える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステップ3の評価手法のなかで検討していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県でも大規模地震が想定されており、レベルによって津波の高さも大きく異なる。いずれを想定するのは重要なポイントとなる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活、環境、経済、観光、どのような視点が重要なかを整理する必要があるのではないか。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県の場合、塩害を考える必要があり、維持管理費の観点も重要である。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系の概念を評価に追加して頂きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステップ4で、自然環境の観点から、既存文献を活用して、生態系や文化財等についても評価を行うこととしている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財、遺跡の視点についても配慮する必要がある。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>経済効果について、観光産業への影響など可能な範囲で評価することが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄軌道導入による観光産業への経済効果について、事例を調査し、それを踏まえ影響について検討を行っていく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車移動と比較して鉄軌道移動だと、移動中にパソコン操作などができる。生産性が高い人であれば、移動時間の有効活用もキーワードとして考えられる。</li> <li>公共交通とICTとの融合を評価することも考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄軌道での移動時間の有効活用、ICTとの融合の評価について、既往研究等を用いて整理する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>沿線のまちの活性化を評価項目として挙げているが、行政でしっかり規制をしておかないと、乱開発や買い占めが発生する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村と情報共有を図りながら、まちづくり等の検討のなかで整理していきたい。</li> </ul>

## 2. 鉄軌道導入によるまちづくり効果について

主な意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちづくり効果の事例を整理するにあたり、①沖縄市と名護市間の都市間交通、②那覇市と沖縄市を新しい路線で結ぶ都市圏内交通、③現モノレール路線を活かした都市圏内交通、この三つはそれぞれ意義が異なっている。</li> <li>・ 今後の評価作業においては、区間ごとに区切った上で、各区間に関する評価を行うことが現実的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上位計画（沖縄県総合交通体系基本計画）において、県の基本的なスタンスとして那覇から名護を1時間で結ぶことを考えている。</li> <li>・ ステップ3の評価手法のなかで検討していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 想定路線に関わる都市計画区域および各都市計画区域における区域区分制度の適用状況の情報を提示して欲しい。</li> <li>・ 非線引である中部広域都市計画区域においては、鉄軌道整備にあたって土地利用の基本方針とコントロール方法を再検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適用状況の情報を提示していく。</li> <li>・ 事業実施段階で検討していく。</li> </ul>

## 3. 今後のスケジュールについて

主な意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ステップ3は検討事項が多いため、丁寧かつ慎重に進めて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員会の意見を聞きながら、進めていきたい。</li> </ul>